

スーパー グローバル ハイスクール

# 佐高 SGH通信 2017

No. 42 (平成30年1月22日発行)

## 第61回日本学生科学賞中央最終審査

# 科学部「読売理工学院賞」受賞！



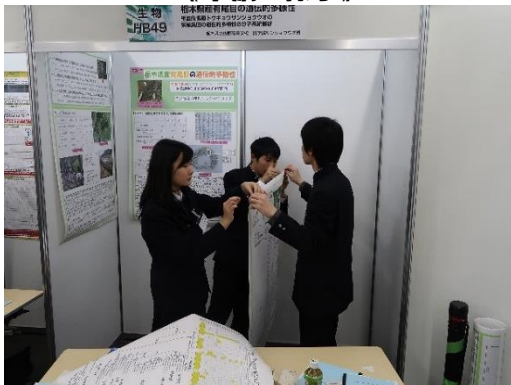
12月22日(金)から24日(日)にかけて、日本科学未来館にて第61回日本学生科学賞中央最終審査が行われ、科学部の研究が、念願の全国入賞(「**読売理工学院賞**」)を果たしました。研究テーマは、「**栃木県産有尾目の遺伝的多様性～絶滅危惧種トウキョウサンショウウオの繁殖集団の遺伝的多様性の分子系統解析～**」で、希少種の保全に繋がる研究であることが、大いに評価されました。

科学部17名を代表して、部長の**佐藤遼祐**くん(2-3)、**松澤あさひ**さん(1-1)、**亀山豪太**くん(1-4)の3名が、最終審査に挑みました。

### ～1日目～

13:00に日本科学未来館に到着後、すぐに審査が始まりました。3名とも緊張した面持ちでしたが、たくさんの審査員の先生方に発表を見に来ていただき、プレゼンも回数を重ねるごとに堂々としたものになっていきました。

《準備の様子》



《準備完了》

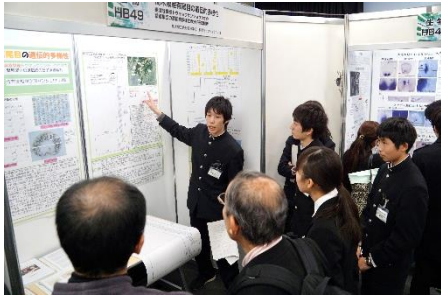


## ～2日目～

1日目に引き続き、審査が行われました。この日は審査員が集団で審査を行ったため、緊張が続きました。しかし、初日の発表の教訓を生かし、臆することなく堂々とした発表をすることができました。

その後、中学・高校の部と分かれて審査に関係のない自由な発表や交流の場がありました。本校の3名も他校のプレゼンを聞きに行くなど、多くの刺激を受けていました。また、佐野高校の発表にも多くのギャラリイが聞きに来てくれたので、審査会よりも忙しい時間となりました。

《発表する佐藤くん》



《発表する松澤さん》



《発表する亀山くん》



## ～3日目～

3日目は審査結果発表でした。発表者がホールに集まり、秋篠宮殿下御夫妻同席のもと、表彰式が行われました。その結果、本校チームは「読売理工学院賞」をいただき、見事入賞することができました。

全国約7万点の出品作品から選ばれた**10位以内**の入賞ですので、大変な快挙であり、これまでの努力の成果であると思います。



《受賞後の記念撮影》

佐藤 遼祐（2-3）

今回は、日本学生科学賞中央最終審査に進出することができ、このような賞をいただくことができたことを本当にありがたく思います。今回の中央最終審査では、自分たちの研究を漏らさず正確に伝えることの難しさを痛感しました。審査員の先生方からの鋭い質問にも正確に答えなくてはいけないため、非常にプレッシャーを感じながらの発表となりましたが、今できる限りの精一杯で伝えることができたのではないかと思います。質疑も、先生方から沢山のアドバイスをもらうことができ、本当に良い経験となりました。また、他校の学生・先生との交流も活発に行い、他の研究から新しい発想を得ることができ、新たな着眼点を見つけるなど、とても刺激的な3日間だったと思います。私たちの研究には将来性があり、新たな発見がまだまだあると思うので、今回の結果に満足してしまうのではなく、この結果を糧により精進していきたいと思っています。

松澤 あさひ（1-1）

22日から24日まで、日本学生科学賞中央表彰式に参加してきました。対面型の審査という慣れない形式ながらも、自分たちが行ってきた研究を論理的かつ魅力的に伝えることができました。大臣賞は逃したものの読売理工学院賞を受賞でき、悔しさも残りますが良い結果を残せたと感じています。今回全国の意欲ある高校生と肩を並べたことで大きな刺激を受け、発表する際には様々な課題も発見することができました。来年度は課題を改善し、今回達成できなかった大臣賞受賞を目指し、さらに追究していきたいです。

亀山 豪太（1-4）

今回は、目標の大臣賞に及ばず、読売理工学院賞という結果でとても悔しかったです。また、最終審査の厳しさや、自分の練習不足を痛感しました。もっとこうすれば良かったなどと思う点も多々ありますが、他の生徒や引率の先生、審査委員の先生方から貴重な意見やお話、ご助言を頂くことができ、自分の考えを深めることができてとても楽しかったです。特に、自分たちとは違う視点でサンショウオの研究を発表をしていた生徒との交流は自分たちの研究の視点とは違っていたのでとても面白かったです。そして、今回の学生科学賞で見つけた課題を今後の研究で追及し、来年こそは大臣賞を取りたいです。今回は、とても貴重な経験ができて良かったです。